



主 張

## 群馬大会を振り返って

川 越 豊 彦

令和最初の新年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。この一年が会員の皆様にとってよい年となりますように、隅田川の近くからお祈りしております。

さて、昨年十月二十三日から二十五日に令和になって最初の全日本中学校長会研究協議会が群馬県前橋市で開催されました。校長会事務局長の山田和豊様を総監督に、大会実行委員長の綿貫知明様を司令塔に、ワンチーム（チーム・ぐんまちゃん）として準備・運営に当たっていただいた群馬県中学校長会の皆様に改めて感謝申し上げます。心温まる大会運営により、全国から集まった一、八〇〇余人の会員の皆様にとって充実した二日間になったことと思います。

開会式の祝辞では、文部科学大臣萩生田光一様より中学校教育充実のため全日中に対する期待が伝えられました。また、前橋市長山本龍様より「学校を預かり、教育を行うのは現場の校長先生。それを支えるのが私たちの仕事」、群馬県教育委員会教育長笠原寛様より「県教委と市町村立中学校との直接の関係はないが、県全体の教育の充実を図るには、市町村立中学校の校長先生の声が極めて重要。これからも様々な声を聞かせてほしい。」という私たち校長へのエールをいただきました。



二日目の最初のプログラムとなるアトラクションで伊勢崎市立第三中学校のギター・マンドリン部と合唱団による素晴らしい演奏が披露され、会場全体が感動に包まれました。併せて、観客が全て校長先生という中で、一人の生徒が、披露した合唱曲のできた背景、歌詞に込められた願いをノー原稿で堂々と話してくれました。その姿に感動し、私も負けじと閉会式の挨拶原稿を傍に置いて話させていただきました。大会で皆様が一番お伝えしたかったことですが、緊張のため、十分伝わっていませんでした。誌面をお借りして、改めてお伝えいたします。

現在のように多様な価値観が混在する社会においては、自分の価値を認識するとともに、相手の価値を尊重し、よりよい人生とよりよい社会を築いていこうとすることが大切です。そのため、教育においては、自分の考えを相手に伝えていく力、他者の考えを理解して、自分の考えを深める力、他者への思いやりをもって、多様な人々と協働できる力、対立を乗り越え、合意形成する力などを子供たちに育んでいくことが求められています。しかし、初日の全体協議会で取り上げた「いじめ」は、重大な人権侵害であるとともに、相手の価値を否定し、協働するための対話や議論を忌み、多様性を否定し、人格を破壊する行為です。また、場合によっては、無限の可能性を秘めた子供たちのかけがえのない命を奪う許しがない行為であり、私たちの目指す教育と対局にあるものです。学校組織をあげ、地域や家庭をはじめ、社会全体を巻き込んで「いじめ」と闘っていくことは、私たち校長の使命であると考えます。この闘いに勝つための方策を初日の全体協議会において全日中提言として報告させていただきました。ぜひ、この闘いに勝つために、全国の会員の皆様の知恵と力をお貸しください。

(全日本中学校長会会長・荒川区立尾久八幡中学校長)